

馬場ひでゆきの活動日誌

No.52

県議会産業経済委員会は、1月29日、31日、行政視察で神戸市、倉敷市を訪れました。ここでは児島ジーンズストリートを報告します。

●シャッター通りをジーンズの街にしたい

岡山県にある倉敷市児島地域は、人口約65000人、瀬戸大橋岡山側の玄関口です。

江戸時代からの綿花栽培により、学生服を始めとする繊維製品の一大産地、日本製ジーンズが誕生した「ジーンズの聖地」でもありました。

しかし、その中心にある味野商店街は、かつて200店舗の店がありました。郊外にできた大規模店舗に客を奪われて、次第にシャッター通りになっていきました。その窮状を打開するために、

平成17年、「児島まちづくり委員会」が設立、商店主や商工会議所、メーカー、倉敷市などの関係者が集まり、ジーンズを愛する人たちが集まる街にしようとして「児島ジーンズストリート構想」を策定しました。

委員会は、商店街にジーンズメーカーの販売店を集積させることを第一目標にして空き店舗の調査と出店者誘致を行いました。行政も協力して様々なソフト事業やハード事業を実施。

粘り強い交渉の結果、現在ではジーンズショップ37店、雑貨店6店、飲食店8店が軒を連ね、年間の訪問客は25万人までに（平成17年当時は6千人程度）になりました。

●実を結んだ泥臭い交渉

私たちは、商工会議所で当時の空き店舗対策に関わった商工

会議所の職員からお話を聞きました。

問…空き店舗を借りる交渉は大変だったのでは？

そのとおり。とにかく一軒一軒廻りました。当初は、「何しに来た」と言われたが、何度も訪問を重ねるうちに奥さんが「貸してあげたら」と言ってくれた。Kになったこともありました。出店者誘致では、出店リスクを少しでも軽減させるべく行政の補助制度を活用して家賃交渉をしました。

問…商店街の再生に自信はあったのですか。

その頃から、高付加価値のジーンズが売れだしていましたが、ジーンズの聖地ということに切り口にすれば何とかなるのではと思っていました。

※ ※ ※

●街づくり再生の熱い物語

を見聞できました。私も、高田世界館の再生に関わりました。で、苦労はよくわかりました。熱意のある地元の関係者が頭を悩ましながら青写真を描き、地元で直接対話を重ねる。そういう地道な泥臭い仕事が一番大事なんだと思います。

瀬戸内の児島ジーンズストリート 街づくりを学ぶ



ジーンズで街を飾る。20年前は年間6000人の訪問者が今は25万人までになりました。



ストリート入口の立て看板。ジーンズショップが軒を連ねます。



私の推し本その22

佐久間亜紀著「教員不足」（岩波新書）

昨年の11月に出たばかりの本です。実はまだ斜め読み。でも、現在の教育分野での最大の問題である「教員不足」に真正面から斬り込んでいます。早く皆さんに「推したくて」選びました。

なぜ、教員不足がおきたのか。2004年、政府は、地方の教育委員会が、法律で決められた教員定数分の給与総額の範囲内で、その自治体が雇用する教員の数や給与水準を自由に決めることができる「総額裁量制」という仕組みを導入しました。

例えば、本来の正規教員を1人雇う給与で非正規教員を2人、3人と雇うことができるようになったのです。その結果、非正規雇用の臨時教員が激増します。これは自治体からすれば教育改革をする裁量の幅が広がりますが、しかし、雇用される教職員にしてみれば、給与や待遇の安定性が失われました。

政府は、その後も、教員免許更新制を導入したり、教育内容を増加させるなどの改革を実行しました。子ども社会の変化などもあり、教員が多忙化を極め、教員志願者の減少が生じてきたのです。

教員不足への対応策ははっきりしていません。時計の針を2004年前に戻すこと、教員の過酷な労働環境を改善することです。「教えるとは、希望を語ること」先生方に余裕がなければ、希望だって語れない。先生が疲弊してはダメなんです。



この事業が必要だと実感したのは、令和のコロナ感染の時期でした。里帰り出産ができない、出産の立ち会いが禁止、産後面会も制限、母親学級も中止、お母さんたちは疲労困憊、青木さんは、その姿をみてお母さんと赤ちゃんが健康になれるための居場所が絶対に必要と感じ、活動を広げようと令和3年11月に法人を立ち上げました。現在は

ハッピーハート訪問

産前産後の子育て支援

1月24日、上越市高土町の特定非営利活動法人「ハッピーハート」を訪問しました。

代表者の青木貴子さんは助産師さん。平成24年から、出産で孤独になりがちなお母さんの支援のために、主に新生児を対象とした一時預かり事業を始めました。

助産師、保育士、看護師、保健師の計15人が活動に関わっています。

赤ちゃん預かりの利用件数も令和4年度48件、5年度が71件、6年度が125件と順調に推移しています。

孤独に陥りがちなママさんと赤ちゃんを扶けたいという情熱とその実行力に感動しました。

高田世界館新年会

1月28日、街なか映画館再生委員会の岸田君に招かれて、高田世界館の新年会に参加しました。職員や理事の皆さんと食卓を囲んで楽しい話ができました。

高田世界館には支配人の上野さんの他にも3名の職員さんがいます。映画館の入口でチケットのもぎりの時にあいさつをはしていましたが、じっくりとお話するのは初めてでした。

皆さんと話していて、それぞれが映画と高田世界館をすごく愛していることが伝わってきました。とても嬉しかったです。

映画館も老朽化しており、今年度はクラウドファンディングで集めた寄付金でエアコンなどの修繕をするとのことでした。



1月25日～2月7日

- 1月25日 するてんまつり（高田まちかど交流館）
- 25日 上越市スポーツ協会新年祝賀会（デュオセレッソ）
- 25日 高田文化協会新年会（長養館）
- 28日 吉川区石谷の鳴谷幸彦さん宅で中山間地農業の話聞く
- 28日 高田世界館新年会



手造りののっぺ。ほのぼのした新年会でした。

- 29日～31日 産業経済委員会県外視察（神戸・倉敷）
- 株式会社コベック訪問（食品廃棄物のメタン発酵リサイクル施設）
- 灘五郷酒蔵組合（灘酒のPRの取組）
- MASK（空飛ぶ車の実用化に向けた取り組み）
- 倉敷市役所（美観地区事業）
- 児島商工会議所（児島ジンズストリート）
- 2月1日 上越民商婦人部新年会（民商会館3階）
- 5日 上越市社会福祉協議会（介護事業の取組など）
- 7日 県議会 防災・脱炭素社会づくり特別委員会（能登半島地震を踏まえた地震津波対策）

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田武番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp